

(別紙)

第三者評価結果

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
Ⅰ-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	Ⅰ-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>しば保育園は理念を「子どもの最善の利益を考慮しながら、心身共に健やかに育てます。」 「子どもの保護者への支援と地域の子育て家庭への支援をします。」と掲げ、さらに基本方針、3つの基本目標を設定、明文化しています。これらは各クラスや事務室に掲げられ、職員や保護者は日常的に目にするできるようになっています。職員は園内会議などで、理念等についての園内研修を行い、理解を深める取り組みを行っています。また、保護者へは、理念等を明記したリーフレットや「入園のしおり」、保護者会総会の資料で、入園オリエンテーション、入園式、また保護者会総会の場で説明し、周知を図っています。</p>		

Ⅰ-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
Ⅰ-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	Ⅰ-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>下野市の第二次総合計画、子育て応援しもつけっ子プラン、また、公立保育園民営化実施計画において、本市の子育てや保育園を取り巻く環境、経営状況が分析されており、それらは本園に配付されています。また、園長は研修会や会議に出席し、保育を取り巻く現状、動向について講義を受け、その結果を園内に復命しています。また、保育の専門誌「保育ナビ」を年間購読しており、職員の理解を深める取り組みを行っています。しかし、今回実施した職員アンケートの結果では「施設長は職員に対して経営状況や経営上の課題について説明していますか。」の問いに「できている」との回答率は低く留まっており、経営環境の説明について、今後のさらなる取り組みが望まれます。</p>		
3	Ⅰ-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>職員配置、施設整備など、本園整備の課題については、事務事業評価シートにより整理され、必要性、緊急性、効率性が評価され、保育士の採用、備品購入・施設修繕整備計画が立てられています。そしてこれらの計画に従って予算化が図られ、具体的な事業が計画的に行われています。事務事業評価シートは、園長よりこども福祉課に提出され、こども福祉課による1次評価、委員会、市長による2次評価がされ、市全体で総合評価が位置づけられ、具</p>		

体的な取り組みに結び付けられています。

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	(a) b・c
<p><コメント></p> <p>下野市の上位計画である「下野市第二次総合計画」において本市の子育て環境づくりの中長期ビジョンが掲げられ、それをもとに子育て環境整備の「下野市子育て応援しもつけっ子プラン」、さらに「下野市公立保育園民営化実施計画」が策定されています。この民営化実施計画において本園は当面、市立保育園として継続されることが決定されています。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	(a) b・c
<p><コメント></p> <p>市の「第二次総合計画」をもとに、5年間の事業計画として「子育て応援しもつけっ子プラン」があります。この計画において各年度の事業目標が定められ、事業の進捗を勘案しながら年度の予算要求を踏まえ、年度の実施計画が策定されています。本園の年度事業もこの計画のもとに予算化が図られ、実施計画に盛り込まれています。</p> <p>保育内容についての年度計画については、主な計画として保育課程、年間指導計画、年間行事計画があり、年間の保育活動が計画的に行われています。その他、園の環境整備計画、避難訓練年間計画、職員研修計画など、各部門についても年間計画が作成され、それによって計画的に活動が行われています。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	(a) b・c
<p><コメント></p> <p>事業計画とは「第二次総合計画」や「子育て応援しもつけっ子プラン」、また各年度の「実施計画」が相当し、本庁企画部門やこども福祉課が担当しています。策定にあたっては子育て関係事業者、保護者代表が策定会議に参加するなど、子育て当事者や支援の現場の意見を踏まえ、定期的に見直し、計画策定が行われています。</p> <p>本園の保育課程、年間指導計画、年間行事計画など保育内容や園の活動については、担当者が決められグループで検討したり、主任が中心となり検討を行っており、検討結果は園内会議で協議され、決定されます。行事等については実施後、保護者へのアンケートを実施し、グループ会議や園内会議で結果の反省、評価を行い、問題点や改善点を明確にし、次年度の計画に反映しています。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a (b) c
<p><コメント></p> <p>本市の第二次総合計画や子育て応援しもつけっ子プランなどの計画内容について、入園のしおりや保護者会総会資料などに記載がないことから、説明は行われていないものと思われる。</p>		

ます。

保育内容に関する年間行事計画は年度初めに計画表が配付され、各行事の際に詳細を通知しています。また、「夕涼み会」や「運動会」等の大きな行事に関しては、近隣の住民に事前に開催の案内文を配付しています。さらに行事の開催にあたっては、保護者を交えた役員会を設置し、保護者の意見を聴きながら計画を立て、園と保護者が一体になって実施していることが確認できました。

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保育の質の向上のために、全職員が「保育者のための自己評価チェックリスト」を年1回行い、自らの保育の質についてチェックを行い、何らかの気づきを得て、今後の改善につなげる取り組みが行われています。また、保育士階層別の研修体系に沿って、園内外の研修計画が作成され、全職員が研修活動に取り組むことを促しています。職員アンケートでは、「研修を修了した職員は、報告レポートを提出したり、皆の前で発表する取組はありますか。」の問いに「できている」は92%と大変高い回答率を示しており、園全体で研修活動が、また研修活動成果の共有化が活発に行われていることがうかがわれます。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「保育者のための自己評価チェックリスト」について、各職員のチェック結果を園全体で集計し、気づきが大きかったこと、印象深かったことを取りまとめ、園の現状と今後の課題の取りまとめを行っています。職員アンケート結果では「組織の課題やサービス内容についての調査や自己評価を実施し、職員も参加して結果の分析や課題の検討を行っていますか。」の問いに「できている」との回答率は69%となっており、さらなる取り組みが期待されます。</p>		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本市の就業規定や職務分掌に園長の施設長としての責務、権限が規定されています。職務分掌については、年度当初の園内会議において説明、確認し、共通理解を図っています。また、火災・自然災害等の緊急時の対応（指示系統等）における園長の役割、責任はマニュアルに明示されており、園内研修で定期的に取り上げ、確認を行っています。職員アンケートの結果では「施設長は職員に対して施設長の役割と責任について伝えていますか。」の問いに「できている」との回答率は85%と高い値が示されています。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>事務室内に児童福祉法を始めとする子育て支援に関連する法令集や保育園設置条例、職員服務規程などを綴った例規集を置き、いつでも確認できるようにしています。園長は施設長としての研修や各種会議に出席し、その活動を通して子育て支援に関連する遵守すべき法令等の情報収集、把握に努めています。また職員については、保育所保育指針改定にあたり関連法令の資料を配付し、園内研修や年齢別研修において理解を深める取り組みを行っています。</p>		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>園長が中心となり「保育者のための自己評価チェックリスト」の結果をもとに、園の現状、課題を整理し、今後の取り組みについて検討しています。年間職員研修計画を立て、園内、園外の研修活動に積極的に参加することを推進するとともに、園内でのグループワークを主導し、チームによる保育体制の整備に努めています。園長は、個々の職員の保育の質の向上、さらには園全体の保育の質の向上に向けて意欲を持ち、指導力を発揮していることがうかがえます。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>園長は日頃の保育活動を通して得た職員の意見を集約し、それをもとに改善策を取りまとめ実行に移しています。今年度は「重大事故が発生しやすい場面」について、職員より意見を募り、それをもとに保育方法の対策や施設・設備の修繕対策を取りまとめています。園長は職員の意見を集約し、園の活動改善に結びつけるなど、指導力を発揮していることがうか</p>		

がわれます。

II-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	(a) b・c
<p><コメント></p> <p>本市にとって保育士の確保は、市全体の重要な課題となっています。保育園人事については本庁こども福祉課が行っており、市全体での入園者数と保育士配置の分析が行われ、臨時保育士を含め保育士採用の方針、計画が検討されています。そしてこの計画をもとに新年度職員採用試験の案内、ハローワークへの求人、市広報を使った保育士の募集等を行っています。また、潜在保育士の掘り起こしも行っており「おしゃべりカフェ はじめのいっぽ」を開催し、人材の確保に取り組んでいます。本園においても人材不足は重要な課題であり、こども福祉課の人材確保活動に呼応して、「はじめのいっぽ」の活動に積極的に参加しています。</p>		
15	II-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a (b) c
<p><コメント></p> <p>正規職員については、本庁総務人事課のもとで総合的な人事管理が行われています。職員の適正配置・処遇、また育成の観点から人事評価が実施され、同時に業務に対する自己評価（チェックリスト）、就業に対する希望について自己申告も行われ、人事評価結果は本人に開示されています。</p> <p>臨時職員については人事評価を行っていませんが、半年毎の雇用契約時に個人面談が行われています。就業継続の意向、保育士としての実績、反省、今後の目標、自分の強み・弱みといった自己評価の申告が行われています。</p> <p>今回実施した職員アンケート結果をみると、「人事考課の目的を職員に説明し、人事考課の結果について職員へのフィードバックがされていますか。」の問いに「できている」との回答は臨時職員において、若干低くなっており、人事評価を行っていないことが反映されていると考えられます。臨時職員の実績、能力を最大限に生かすためにも、臨時職員に対する何らかの人事評価制度の整備が望まれます。</p>		
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	(a) b・c
<p><コメント></p> <p>休暇等の取得については職員の希望に沿って取得できるようにしており、毎月、各職員の勤務意向を確認し、それをもとに毎月の勤務予定表が作成され、各職員に配付されています。各職員の勤務状況について正規職員はパソコン上の出退勤システムで、臨時職員は臨時職員出勤簿で詳細に管理しています。</p> <p>職員はストレスチェックを実施し、結果によってカウンセリングを受けることになっています。また、園長は職場環境改善のため、メンタルヘルスの研修を受けることになっています。正規職員は課長面談、臨時職員は園長面談を実施し、働きやすい職場づくりに取り組ん</p>		

でいます。		
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>正規職員については本市で統一して行っている人事評価制度により、育成に向けた取り組みを行っています。各職員は個人目標を設定し、手段・方法、期間など具体的な実施スケジュールを立てて行われています。個人目標の進捗管理については、目標設定時の期首、進捗状況の確認の中間、期末に課長と面談し、評価を行う体制が整えられています。</p> <p>臨時職員については、年2回面談で目標確認を行っていますが、正規職員のような人事評価制度に基づく取り組みにはなっていないことから、今後の検討が望まれます。</p>		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>臨時職員を含め、全ての職員に対し研修の機会を作り、参加を促しています。職員には市内5園研修、年齢別研修、テーマ別研修など様々な研修が用意されており、個々の職員の専門性を階層別職員体系表に沿って把握し、職員研修計画が立てられ、外部研修、内部研修が計画的に行われています。また、各職員別に研修受講一覧が作成されており、過去の研修活動の実績を考慮しながら、研修活動が行われています。</p>		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>下野市内特定教育・保育施設に勤務する保育士や教諭を対象とした研修があり、テーマ別に実施しています。その他、市立保育園では年齢別にテーマに沿った研修を行い、個々の保育士の階層に沿った研修活動を行い、質の向上に努めています。園内研修では研修報告する場を設け、全職員の共通理解に努めています。今回実施した職員アンケート結果で「研修を修了した職員は、報告レポートを提出したり、皆の前で発表する取組はありますか。」の問いに「できている」との回答率が92%と大変高い値からも活動が裏付けされています。</p>		
Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>実習生の受け入れについては、マニュアルに従って実施しています。学校側の要請に従って実習プログラムを用意し、指導にあたっています。実習生からは毎日実習日誌が提出され、それを担当職員、主任、園長が確認しています。また、実習最終日には園長、主任、担当職員が参加する反省会が行われています。</p>		

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・(b)・c

<p><コメント></p> <p>本園は下野市立保育園であるため、保育園の事業等に関する情報公開は、下野市で行っており、市のホームページで本園の概要が紹介されています。また、今回の第三者評価の実施により、とちぎ福祉サービス第三者評価推進機構のホームページに本園の概要、評価結果が掲載されることとなります。本園の概要を紹介するリーフレットがあり、訪問者や入園を希望する保護者等に配付し、園の紹介に活用しています。</p>		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本園はパソコンの財務会計システムにより、歳入・歳出の管理を行っており、システムは本庁こども福祉課等と直結しています。また、市による行政監査、県による指導監査を定期的に受審しています。今回実施しました第三者評価についても評価結果の公表を予定しており、公正かつ透明性の高い経営・運営の取り組みが行われています。</p>		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本園は理念を「子どもの最善の利益を考慮しながら、心身共に健やかに育てます。」「子どもの保護者への支援と地域の子育て家庭への支援をします。」と掲げ、「地域の子育て家庭への支援」を柱の一つにおいて、保育活動を行っています。</p> <p>本園の地域の方々との活動については、年1回児童館親子教室との交流事業があり、地域の親子と園児、職員が本園で一緒に遊ぶ活動や、勤労感謝の日に地域の方々へ感謝の気持ちを伝える手作りプレゼントを贈っています。また、ふれあい福祉運動会、敬老会に参加し、地域の方々、高齢者との交流活動を行っています。しかしいずれの活動も年1、2回の活動であり、理念に掲げる地域の子育て家庭への支援の活動にはなっていないことから、今後の活動に期待されます。</p>		
24	II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>ボランティアの受け入れは、マニュアルに従って実施しており、マニュアルのなかにボランティア受け入れの意義および目的が明記されています。現在、「コアラのおばさん」が月2回、読み聞かせのボランティア活動を行っています。また、これまで中学生職場体験、インターシップの協力を行っていましたが、今年は依頼がなく実施していません。保育士の人材が不足する現状にあって、ボランティアは園の運営において貴重な人材でもあり、また、保育士を目指す人材を育てるためにも重要であることから、今後、積極的な受け入れの取り組みが期待されます。</p>		
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		

25	Ⅱ-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本園の運営に関連する小学校・幼稚園・保育園、子育て関係機関、行政施設、警察や消防署、地域自治組織といった関係機関のリストを整理しています。本園の園長は、下野市地域自立支援協議会の委員や下野市障がい者福祉計画策定委員会の委員として活動しています。また、5歳児健康相談事業において、発達に不安のある子どもについて関係機関に繋ぐ発達支援活動を行っています。さらに地域の小学校とは園児の就学にあたり引き継ぎの連携があり、幼小連絡協議会に参加して情報交換、交流活動を行っています。</p>		
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	Ⅱ-4-(3)-① 保育所が有する機能を地域に還元している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>現在、本園が行っている地域の親子との交流活動は、児童館親子教室との交流、「おしゃべりカフェ」に参加の親子との交流がありますが、年1回の単発事業であり、本園の定期的活動、本園を特徴づける活動には残念ながらなっていないのが現状です。本園の理念に「地域の子育て家庭への支援」を掲げており、理念に沿った活発な活動の展開が望まれます。</p>		
27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本園の園長は、下野市地域自立支援協議会の委員として、また下野市障がい者福祉計画策定委員会の委員として活動しています。また、5歳児健康相談事業において、発達に不安のある子どもについて関係機関に繋ぐ発達支援活動を行っています。</p>		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保育理念や保育方針、保育目標は、各クラスや事務室等に掲示し、常に確認するとともに、園内会議で読み合わせをして理解を深めています。また、園内研修で全国保育士倫理綱領の読み合わせを行い、さらに事務所に掲示するなど、理解を深める取り組みを行っています。職員アンケートで「利用者を尊重したサービス提供の重要性や身体拘束や虐待防止に関して、勉強会・研修などを行っていますか。」の問いに「できている」は92%と大変高い回答率となっています。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「保護者支援マニュアル」の中に、「プライバシー保護及び秘密保持」や「プライバシーの尊重と保護のポイント」、「虐待が疑われる子の早期発見」など子どものプライバシー保護等に関する規定や対応などを定め、保育に取り組んでいます。保護者アンケートの「職員はあなたのご家庭やあなたのお子さんに関するプライバシー（秘密）を守っていますか。」で「はい」は82%と高い回答率を示しています。</p>		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>次年度の入園希望者に対しては、日を定め見学会を開催しています。これ以外の入園希望者に対しては、園の見学を随時、希望に合わせて受け付けています。見学日は主任保育士が担当となり、園のリーフレット等をもとに説明し、園内を案内しています。現在、リーフレット等は他の公共施設等に置かれていませんが、今後、他の保育園が民営化されることも踏まえ、容易に情報を入手できる体制整備が必要と思われます。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>本園への入園にあたっては、「入園のしおり」を用いて説明を行います。「入園のしおり」には、保育理念や保育方針、年間行事、一日のスケジュール、用意するものなどが記載されています。バッグやタオルなどの用意するものは写真やイラスト入りで、現物を用いてさらにわかりやすく丁寧に説明されています。また、伝える内容は面接チェック表を用いて、保護者に伝え漏れが無いように工夫がなされています。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応	a・b・c

	を行っている。	
<p><コメント></p> <p>市内の公立保育園に転園する場合には、児童票及び口頭での引き継ぎを行い、継続性に配慮した保育、支援を行っています。</p>		
<p>Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。</p>		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保護者が参加する行事（夕涼み会、運動会、発表会）を実施した後、保護者にアンケートを行っています。いただいた感想や意見を取りまとめ、意見等については「思いやり席について予約できるように検討したい」などと検討状況を合わせて記載し、保護者に紙面でお知らせしています。また、今年度に初めて取り組んだ「一日保育士体験」では、参加した保護者と面談を行い、アンケートを実施し、意見や感想をうかがっています。</p>		
<p>Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。</p>		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「苦情記録書」を確認し、苦情の内容とともに保護者への対応や改善策が記載され、職員が直接苦情を受け付け、丁寧に対応している様子が見えます。</p> <p>「ご意見ご要望の解決のための仕組みについて」として「受付担当者」や「相談解決責任者」、「第三者委員」について記載されたチラシを園内に掲示し、周知に努めています。さらに「入園のしおり」に記載・説明したり「園だより」でもお知らせしています。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「入園のしおり」には「直接話しにくい場合、第三者委員にご相談できます」との記載があります。しかし、保護者アンケートでは「第三者委員等」の認知度は68%に留まっており、周知へのさらなる取り組みが望まれます。一方、「保護者が保育所の運営や保育内容などの意見を言いやすいように、職員は日常的に保護者に言葉かけを行うなどの取組をしていますか。」については「はい」の回答率が86%と高い値を示しています。上記、苦情に対する職員の丁寧な対応などが理解されているものと思われます。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>面談シートや苦情記録書などから、保護者からの意見、相談等に対しては早期に園長等関係者と話し合い、保護者に回答等していることを確認しました。保護者アンケートで「保育所は、あなたの意見や要望などに、きちんと対応してくれますか。」の問いに「はい」の回答率が89%と高い値になっていることから、適切に対応がなされていることがうかがえます。</p>		
<p>Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。</p>		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスク	a・b・c

	マネジメント体制が構築されている。	
<p><コメント></p> <p>災害やケガ、事故、病気などの発生への対応を記した「保育安全マニュアル」は全職員に配付されています。園内会議では、夏にはプールでの事故防止など、適宜安全対策について話し合いがもたれています。また、ヒヤリハットやケガ報告について発生時間や場所などについて集計・分析を行っており、再発防止に向けて取り組んでいる様子が見受けられます。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「感染症の予防対策と発生時対応マニュアル（インフルエンザ）」や「嘔吐に対する消毒方法」、「嘔吐物・下痢便で汚れた衣類の取り扱い方」、「衛生管理（対応と消毒方法）」などのマニュアルが整備されています。また、感染症が発生した場合は「配信メール」で保護者に通知されています。保護者アンケートでは「感染症発生状況等の情報伝達」についての「はい」が96%と大変高い回答率を示しており、保護者の高い評価がうかがわれます。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「保育安全マニュアル」に加えて、「火災時のマニュアル」や「地震時のマニュアル」が文書化され、注意点を「ポイント」として記載するなどの工夫が見られます。また、自然災害についてまとめた「災害対策計画」も策定しています。その他「消防計画」や「避難訓練年間計画」、「不審者対応訓練年間計画」は毎年策定し、計画に基づき毎月、避難訓練及び不審者対応訓練が行われています。</p>		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保育の標準的な実施方法を定めたものとして「デイリープログラム」などがあり、「デイリープログラム」は、0・1・2歳用と、3・4・5歳用とに分かれて作成されています。職員アンケートにおいて「食事介助（支援）等の標準的な実施方法に差異が生じないよう、職員に対し研修や指導を行っていますか。」の問いに「できている」は69%の回答率になっており、さらなる取り組みの充実が期待されます。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保育の基本や標準的な実施方法を定めた「保育過程」や「デイリープログラム」などは毎年度策定されています。また、早遅番職員の業務内容を記した「早番の仕事」や「遅番の仕事」も文書化されており、実情に合わせて加筆されている状況も見受けられました。</p>		

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>指導計画は、保育過程に基づき各クラスの担当職員が作成し、園長や主任との協議等を踏まえて策定される他、ケース会議において配慮すべき事項について話し合い、職員の共通理解を深めています。しかし、職員アンケートにおいて「利用者のアセスメントやサービス実施計画には、さまざまな職種の職員が参加して協議していますか。」の問いに「できている」の回答率は低い結果となっており、取り組みの充実・改善が求められます。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「年間指導計画」は四半期ごとに担当職員が自己評価を行い、次期につなげています。毎月の「指導計画」は月末に担当職員の自己評価と子どもの評価を行い、主任、園長に提出し、翌月の指導計画に活かすようにしています。「年間食育計画」や「体力づくり年間計画」も同様に時期を定めて担当職員の反省が記録されています。</p>		
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>朝のミーティングは、「朝のごあいさつ」として、子どもも一緒にホールで行われます。子どもは前（園長先生）を向いて静かに座っています。園長先生があいさつし、一日の予定など連絡事項を伝えていますが、子ども達にもわかるように丁寧に話しているのが印象的でした。職員代表が「早番・遅番連絡ノート」に“ミーティング内容”を記載していますが、朝遅番の“保護者との連絡事項”と色分けして記載しており、見やすいよう工夫が感じられます。ミーティングに集まった職員はこのノートに目を通し、確認していました。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>児童票等の子どもに関する記録は、事務所（室）内の鍵がかかるキャビネットに保管されています。また、児童票に記入をする際は事務所で行うこととし、事務所外への持ち出しは禁止されています。職員アンケートでは「サービスの記録内容や方法に差異が生じないよう、職員に対し研修や指導を行っていますか。」の問いに「できている」は77%の回答率を示しており、さらなる充実が期待されます。</p>		

A-1 保育内容

A-1-(1) 保育課程の編成		
A①	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a・b・c

<p><コメント></p> <p>子どもの最善の利益や、保護者と地域の子育て家庭の支援について記載されている「保育理念」や、「保育方針」、「保育目標」等が定められ、「保育課程」にも明記されています。また「保育課程」には、「発達過程」及び「地域の実態とそれに対応した事業」について記載されており、地域については「育児の伝承機能が低下」と指摘し、「育児相談」や「児童館との交流」などの支援を掲げています。</p>		
<p>A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開</p>		
A②	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>冬場のこの時期、暖房の設定温度は20℃に設定しているとのことですが、子どもの状況によって柔軟に対応している様子がうかがえます。定期的に温度・湿度・通風などを確認・記録することにより、よりふさわしい居室環境を維持できるのではないかと感じました。また、「保育園事故災害防止点検表」によって建物施設や設備、遊具等の安全点検を定期的に行っていることが確認できました。</p>		
A③	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>訪問調査日は、園庭で普段から行われているマラソンがあり、子ども達は体操した後、元気いっぱい走っていました。前日に行われたマラソン大会で好成績を収めた子どもは、この日も速く走っており、得意なことを伸ばし自信をつけていければと園長先生が話していました。走り終わってクラスに戻る際に、他の子どもにも「〇〇ちゃん、今日は頑張って走ったねー」などと一人ひとりを認め、その子なりの頑張りを伝えていました。得意な人だけでなく、一人ひとりを受容し、子どもの状態に応じた保育の一環を感じました。</p>		
A④	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>カゼが流行るこの時期は、「外から帰ってきたら何をしたらかな〜」と声をかけ、うがいや手洗いを自ら気付いて行うようにしたり、水道の前にポスターを貼り、正しいうがいや手洗いができるようにしています。また、4歳クラスでは「三角食べ」の写真を貼り、言葉だけでなく、視覚から楽しみながら食への関心やマナーが習慣づけられるようにと、工夫した取り組みが行われています。</p>		
A⑤	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>朝、登園した子どもは「ホール」に集まり、ゴザの上でブロック遊びをしています。ある一画では段ボールで作られた「パーティション」によって「図書コーナー」が形成され、その中では自ら読書を選択した子どもたちが静かに読書をしています。</p> <p>子どもの主体的な活動には、保育士がきっかけを作ることが大事だと園では考えています。郵便ポストを制作した際は、投入口を作ったところで「何に見えるかな」などと問いかけ、</p>		

<p>その後の色塗り等は子ども達が行いました。職員がきっかけをつくり、その後は子ども達の自主性にまかせる取り組みの一つと理解しました。</p>		
A⑥	A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>0歳児は、発達が著しく個人差が大きい時期であることから、一人ひとりの状況に応じた保育の実施が必要です。保護者とは、食事や睡眠、排便、体温などについて、家庭と園の様子をそれぞれ毎日連絡帳に記入し、子どもの様子を相互に毎日理解しています。また、体調がすぐれない時などは朝晩の送迎時に直接会話でうかがう様子も見受けられました。</p>		
A⑦	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「もも」クラスの靴箱の上に、ペットボトルの底の部分に「石」や「木片」が入ったものがありました。担任がペットボトルの底の部分を使って作成した「おそとバッグ」でした。子ども達が散歩で拾った「石」や「木片」を大切にしているのを見て、保管する場所をと思い作成したとのことでした。</p> <p>1・2歳児は自我が育ち活動が広がる時期であり、子どもの気持ちを尊重し、探索活動が十分行えるような関わりが行われていることを実感した出来事でした。</p>		
A⑧	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>3歳以上児については、集団の中で安定しながら遊びを中心とした活動に取り組んでおり、各クラスには段ボールで作ったパーテーションなどを用いて「お店屋さんごっこ」遊びなどが行われています。また、就学を見通した遊びも取り入れられ、5歳児では「お手紙ごっこ」が流行っているとのこと。そこで園長先生のきっかけづくりもあり、子ども達で「郵便ポスト」が製作されました。これを受け担任の先生は「郵便配達のバッグ」を作成しており、翌日から子どもたちがはりきって、手紙を配達する様子が目に浮かびます。このように楽しみながら文字に親しむなど、工夫ある取り組みが見受けられます。</p>		
A⑨	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>支援児が在籍する場合には、定められた書式等に基づき個別の指導計画を作成し、保育を行う体制が整備されています。職員は毎年「障害児保育」に関する研修に参加するとともに、「障害児・支援児」を対象とする園内研修を月1回以上開催し、資質の向上に努めています。</p> <p>一方、保護者に対して、発達障害等障害児に関する適切な情報をどのように伝えていくかは、今後の課題となっています。</p>		
A⑩	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の	a・b・c

	内容や方法に配慮している。	
<p><コメント></p> <p>早朝保育は「ホール」で、延長保育は「さくら」のクラスで行われています。「ゴザ」を敷いてくつろげる場や、段ボールで作った「パーティション」により落ち着いた「図書コーナー」など、工夫ある場の提供を感じました。長時間にわたることによる職員間の情報の伝達は、「早番・遅番ノート」により行われており、前述のとおり「保護者との連絡事項」と「ミーティング内容」とを色分けして記載しており、出勤してきた職員が確認する様子も確認しました。</p>		
A⑪	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保育の中で遊びを通して文字や数字に興味を持つ活動など、就学を見通した取り組みが行われています。また、下野市幼小連絡協議会に参加し、学校見学や情報交換会が開催されるなど、就学を見通した交流が行われています。</p>		
A-1-(3) 健康管理		
A⑫	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもの健康管理については、保護者との情報交換により「健康の記録」にて予防注射の接種状況や既往歴などを把握しています。また、連絡帳や朝夕の送迎時に口頭で情報交換を行っています。日々の保育においては、視診・検温・子どもの訴えなどで健康状態を把握し、対応しています。乳幼児突然死症候群（SIDS）の防止について園内会議で話し合いも行われており、午睡時には「生活票」に顔の向きや体温をチェックし記録しています。</p> <p>保護者アンケート結果より「保育中の発熱の措置・保護者への連絡」に対する保護者の評価は100%となっており、職員の丁寧な対応が評価されていると思われま。</p>		
A⑬	A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>内科健診、歯科健診、尿検査を年に2回実施しています。結果については児童票に記入し、保育に反映させています。また、保護者には、文書又は口頭で知らせており、さらに、必要のある子どもに対しては、受診や治療を勧めています。</p>		
A⑭	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「食物アレルギー対応マニュアル」が作成されています。給食では医師からの指示のもと、アレルゲンとされる食品の除去または代替の献立を保護者の承認のもと提供しています。誤食を防止するため専用の食器を用い、名札等をつけています。</p> <p>また、「保育安全マニュアル」内に「アレルギー対応の流れ」や「アナフィラキシーの対応」など、基本的な流れや対処方法等について記載されています。</p>		
A-1-(4) 食事		
A⑮	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a・b・c

<コメント>		
<p>3歳以上児と3歳未満児に分けて「年間食育計画」が策定されており、野菜の栽培・収穫、クッキングなどが計画され、期ごとの反省も記載されています。園庭の一角でトマトやキュウリなどを栽培した他、園から約10分の場所に畑を借りサツマイモを栽培、収穫体験を楽しみました。また、市健康増進課による食育教室が開催されたり、年長児は翌日の給食メニューを食材別に分類することで、食材への興味・関心を持つ取り組みも行われています。</p>		
A⑩	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a・b・c
<コメント>		
<p>給食の献立は市の栄養士が作成しており、市内5園で共通となっています。月ごとに各5園の子どものリクエストに応えるメニューや、誕生会メニュー、季節・歳時記に応じたメニューなどもあります。検食は園長及び主任保育士またはクラス担任が行い、安全な食事の提供に努めています。喫食状況等を踏まえ、園内給食会議や献立会議において話し合い、改善される体制がとられています。</p>		

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A⑪	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a・b・c
<コメント>		
<p>家庭との連携については、朝夕の通園時における保護者との日々のあいさつなどでコミュニケーションを図ることを心掛けており、さらに、連絡帳（0・1歳児は毎日、2歳以上は必要に応じて記載）により、家庭との連携を図っています。また、今年度は「一日保育士体験」を行い、8名の保護者が参加しました。保育士として参加することで、子どもへの関わり方や子どもに対する相互理解を図ることができ、保護者にも好評でした。</p>		
A-2-(2) 保護者等の支援		
A⑫	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a・b・c
<コメント>		
<p>保護者が安心して子育てできるように、日々のコミュニケーションや連絡帳を通して保護者と連携し、質問や意見等にも応え、子育てを支援している様子が記録により確認できます。保護者アンケートで「子どもの状態や育ちについて、保護者の相談に応じてくれますか。」の問いに「はい」は75%の回答率を示しており、さらなる取り組みが期待されます。</p>		
A⑬	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a・b・c
<コメント>		
<p>「保護者支援マニュアル」に「虐待が疑われる子の早期発見」や「虐待の疑い発見のチェックリスト」、「児童虐待対応の流れ」などが記載されており、「保護者支援マニュアル」は全職員に配付し理解に努めるとともに、各クラスにも配置され、保育中すぐに確認できるようになっています。また、虐待防止講演会・研修会に職員が参加し、園内会議で報告されて</p>		

います。

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
A⑳	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価） を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a・b) c
＜コメント＞ 「保育者のための自己評価チェックリスト」を活用し、今年度自己評価を実施し、保育士は自身の保育を振り返り、気づきを得ています。また、個人の自己評価をもとに、グループワークを行い、集計結果により園全体としての課題も明らかになっています。園では、この結果を保育に活かしていきたいと考えており、今後の取り組みが期待されます。		